



2020/12/10

No. 92

# 科学の森ニュース

The University of Tokyo Forests News

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

## Contents

- ・ 出版案内と音楽会報告…1
- ・ 田無演野外実習…2
- ・ 学位記授与式修了生答辞…2
- ・ 森林管理技術賞受賞…2
- ・ サントリー社協定締結後の取り組み…3
- ・ 四コマ漫画：職員のちょっと…3
- ・ 動植物紹介：チョウセンゴヨウ…4
- ・ 湖畔広場の東屋…4

## 「東大式 癒しの森のつくり方」出版と「癒しの森の朝もや音楽会」開催 富士癒しの森研究所

富士癒しの森研究所は、「癒し」をキーワードに森と人のつながりを再構築するための研究教育に取り組んでいます。その内容を易しく紹介する書籍「東大式 癒しの森のつくり方；森の恵みと暮らしをつなぐ」（築地書館）を出版しました。この本は、全国の書店で販売されています。また、地域と共同で取り組む研究プロジェクトの一環で、8月30日（日）に早朝の森を舞台とした実験的な音楽会を実施しました。コロナ禍で演奏家ができることを模索していたNHK交響楽団の弦楽トリオと早朝の森の美しいコラボに約200名の参加者が心地よい時間を過ごしました。



こんな表紙の本です 書店で見かけたらぜひお手に取ってください



音楽会の様子はYouTubeでご覧になれます 「癒しの森の朝もや音楽会」で検索

## 森林科学基礎実習Ⅲの野外実習

田無演習林

2020年春季の森林系2専修の実習はオンラインで実施され、演習林での実習は中止となりました。しかし、対面・野外でなければ修得できない内容の実習もあります。森林科学基礎実習Ⅲでは、9月8(火)、9日(水)に田無演習林で現地実習を行いました。主要キャンパスから近く、日帰りでも通えることも実施の理由です。スギの樹高や胸高直径の計測、間伐の見学、落とし穴式のわなによる昆虫採集と観察、森林樹木の観察などを行いました。例年は合計2週間程度の宿泊しながら行う実習の短縮版だったので、駆け足ではありましたが中身の詰まった実習でした。学生同士はほぼ初対面で緊張していましたが、野外での実習をかみしめている様子でした。



おみとおし(林分材積簡易測定板)の体験

## 演習林所属学生チョーさんの学位記授与式における修了生答辞

教育研究センター

9月18日(金)、秋季の学位記授与式が安田講堂で開催されました。式典は学部や大学院研究科の代表者のみの出席により挙行され、その様子がインターネット配信されました。この式では、演習林所属学生のチョー・トゥー・モーさん(博士課程修了)が修了生総代として学位記を授与され、答辞を述べました。少し緊張気味のチョーさんでしたが、入学式から今年のコロナ禍も含めてさまざまな困難があった中、東京大学の素晴らしい仲間や先生に支えられて、ついに学位授与に至った

という感謝の気持ちと喜びを述べました。修了生の皆さんのこれからの活躍を願っています。



総長の前で答辞を述べるチョーさん

## 技術職員3名が森林管理技術賞を受賞

企画部

9月24日(木)に開催された全国大学演習林協議会秋季総会において、加盟校の技術職員を対象とした第22回森林管理技術賞(全4部門)の授賞式がありました。本学からは千葉演習林の村川功雄さんが森林生物(昆虫)に関わるインベントリー調査と教育研究への貢献により「特別功労賞」、秩父演習林の高徳佳絵さんがツリークライミングを活かした教育研究および社会活動への技術的貢献により「技術貢献賞」、北海道演習林の木村徳志さんがフェノロジー調査および植物インベントリー調査による学術的貢献により「学術貢献賞」を受賞しました。新型コロナウイルスの影響によりオンラインで挙行され、それぞれ所属の地方演習林長から賞状が授与されました。



尾張千葉演習林長、村川氏



鎌田北海道演習林長、木村氏



山田秩父演習林長、高徳氏

# クローズアップ

## 秩父演習林とサントリー社の協定締結後の これまでの取り組み

秩父演習林

秩父演習林はサントリーホールディングス株式会社と『サントリー「天然水の森・東京大学秩父演習林プロジェクト』に関わる協定を2011年に締結し、教育研究、森林整備事業を推進しています。

これまでの取り組みを紹介すると、まず基盤となるものとして、航空機レーザー測量による栃本団地全域のLiDARデータ（高精度で地表の凹凸を計測したもの）の取得が挙げられます。このデータは、森林管理業務や研究活動に広く利用され、森林作業道の開設、更に乗用モノレールの充実を通して、林内へのアクセスが劇的に改善しました。これらを活かして天然林と人工林の35箇所ではシカ排除柵を設置し、植生回復が順調に進んでいます。研究では、サワラ林の腐朽被害の解明、植生の動態・植物の遺伝的多様性、鳥類や昆虫類の生態、土壌微生物の機能等、多くの研究者が参加してさまざまな研究を進めています。シカの個体群動態に関する調査も行い、密度の空間分布や季節変化を調べています。また、流量や水質の調査から、降った雨の多くは地下深く、基岩中までしみこんだ後に溪流に流れ出していることがわかってきています。森林施業についても、不成績造林地の一部を天然林へ誘導する試みに着手することができました。

また、プロジェクトで生み出された木材はサントリー社により、有効に利用する取り組みである「育林



新設した作業道の完工検査で森づくりについて語らう

材」としての活用を行っています。この「育林材」は2016年の秩父演習林創立100周年の記念品として作った写真立てにも使われました。

今後も協定に基づいた研究成果や森林整備の知見を発信し、森林保全や林業再生を目指す全国の森づくりに貢献していきます。

### 演習林のおじと

作・技術職員 Y 006



# チョウセンゴヨウ

マツ科マツ属 学名：*Pinus koraiensis*

富士癒しの森研究所

チョウセンゴヨウはアジア大陸東北部から日本にかけて分布するマツの仲間です。「ゴヨウ」は「五葉」で、マツの葉が5本まとまってついていることによります。日本では本州・四国の一部の山岳地帯に分布が限られます。富士癒しの森研究所では、寒地性樹種試験地の一角にチョウセンゴヨウの林分があります。このマツの特徴は、なんといっても大きな松ぼっくり。中華料理などの食材となる「松の実」はこれから取れます。朝鮮半島では松の実採取のための植林が行われているそうです。当研究所では、リスとの競争で、なかなか手にすることができません。



## 名所・名物案内

### 湖畔広場の東屋

富士癒しの森研究所

富士癒しの森研究所の湖畔広場には、一風変わった東屋があり、壁の一部は積み込まれた丸太でできています。どうして、このような作りになっているのでしょうか。当研究所の森林管理では、利用者や近隣の施設に危害を及ぼしそうな木を伐採します。こうした木は、すでに折れていたり芯が腐っていたりしますが、それでも薪には使えます。薪割り前の乾燥を兼ねて、東屋に積んでおけば、その薪が東屋の壁にもなるというわけです。つまり、この東屋は「薪棚」を兼ねているのです。

この東屋は、元・秩父演習林サポーターの清水昭治さんに設計してもらいました。その構造は、とてもシンプルかつユニークです。まず、丸太の上下だけを平行に挽く「太鼓挽き」という状態の丸太を土台から立ち上げた長いボルトで貫通させて積み上げます。そして、その上に当研究所で間伐したヒノキの長材を梁にして、ナットで締め上げ、その隙間に薪にする丸太を積み上げています。



積まれた丸太は、学生実習等の薪割り体験に使われ、最終的に研究所の暖房用燃料になります。こうして、毎年、積み込みと積み出しを繰り返しながら、湖畔の休み処として親しまれています。

※"森たび" 東京大学演習林の見どころ 100 (2012年3月発行) の85番「湖畔広場と東屋」でも紹介しておりますので、ご参照ください。